

日本とブラジルは1895（明治28）年11月5日、「日伯修好通商航海条約」調印により外交関係を樹立しました。2020年は125周年に当たり、ブラジルでは、記念切手も発行されています。日本とブラジルの長い友好関係は、多くの人たちの交流と絆によって力強く支えられています。愛知県国際交流協会では、“Boa tarde! ~ こんにちは!”と題してブラジルを特集しています。

写真で見るブラジル

～ブラジルの日系人社会から自然、観光、料理まで～



■ ブラジル日系人社会の風景 ■

明治40年頃からブラジルへ出稼ぎのため移住した日本人のコミュニティは、今はブラジルにしっかりと根を下ろしています。



サンパウロにある日系移住地での運動会「お弁当タイム」

(写真提供：蒲美幸氏)



☆ サンパウロ市 ☆ クリスマスの電飾地下鉄

クリスマスシーズンになると、サンパウロ市内の地下鉄は電飾が施されて、とても派手になります。

サンパウロ市は、人口も多くブラジルのみならず南米一の大都市であり、経済の中心でもあります。

日系人も多く、サンパウロには、世界で唯一、日本の47都道府県すべての県人会が存在していると言われています。

愛知県人会を始め、多くの県人会はサンパウロ市内にあります。



(写真提供：ブラジル愛知県人会)

サンパウロ市の街角風景

(写真：“VISIT BRASIL”サイト“Albums”より)



サンパウロ州営アグアブランカ公園 (Parque Água Branca)



誰でも入れる無料の公園です。いろいろな動物が放し飼いにされており、直接触れ合うことができます。ニワトリ、クジャクほか林に多くの小鳥が、池には鯉やガチョウ、アヒル、果ては猿までいます。警察馬の厩舎があって、馬を訓練しているところも観られます。公園内には、博物館、ピクニック広場、遊具施設などがあるほか、週末などには屋台がたくさん出たり、オーガニック野菜などを売る市場があったり、いつも賑わっています。

(写真提供：ブラジル愛知県人会)

神社でもなく、5月でもありません。
日系移民100周年記念公園です。



(写真提供：蒲美幸氏)

日本文化が根付いている地域では、桜もあちこちで見られ、サンパウロ市内のカルモ公園(Parque do Carmo)では毎年さくら祭りが開催され、多くの人で賑わいます。日本で主流のソメイヨシノに比べると、濃いピンク色で小ぶりですが、たくさんの桜が植えられています。



(写真提供：ブラジル愛知県人会)



サンパウロ市内の東洋人街リベルダーデ地区では、毎年七夕まつりが行われます。

たくさんの大きな七夕飾りが賑やかなリベルダーデのメインストリートでは、人々が願いを書いた短冊を笹に括り付け、日本と同じ様に願い事をしています。

(写真提供：ブラジル愛知県人会)

移民祭り



(写真提供：ブラジル愛知県人会)



サンパウロ市内にある移民博物館（旧移民収容所で、過去には日系移民もサントス港から列車で到着した場所）で毎年開催される祭りです。

移民の国ブラジルらしく、世界中色々な国や地域出身の人たちがそれぞれの文化を紹介する場となっています。

日常では目にすることのない、その地域の人たち以外には珍しい物産や食べ物が売られ、各地の歌や踊りなどの出し物もあって、毎日催し物も変わるので、期間中いろいろ楽しめます。

日本を始め、韓国、ベトナム、中国などのアジアからリトアニアなど欧州の小国、シリア、レバノンなどアラブ、アフリカのカメルーン、果ては大西洋に浮かぶマデイラ諸島（ポルトガル領）まで、5大陸からの移民が全ているのは“さすが移民大国”と思わせてくれます。



日本祭り2019

(写真提供：ブラジル愛知県人会)



毎年7月にサンパウロ市で開催される日本祭りです。
2020年は、11月にオンライン開催でした。

日系企業、日本関連商品を扱うブースやJETROやJICAなどによる日本文化の紹介、歌・ダンス・伝統芸能などの出し物、各県人会を始めとする日系団体による郷土食フードコートなど、来場者20万人規模の大きなイベントです。



ブラジル愛知県人会では、毎年愛知にまつわる郷土食を調理して販売しており、2019年は味噌カツ丼や味噌串カツを出展、過去にはきしめん、味噌煮込みうどんなども出しました。

一番下の写真は、愛知県人会のブースです。
愛知県のマークが見えますね。

屋台祭り2018



ブラジル愛知県人会館で、年2回開催している屋台祭りの様子です。

この時は、愛知・長野・滋賀・和歌山・大分県人会等が参加しました。それぞれ各地の地元食を中心に販売、会館内の舞台では出し物もあり、毎回終日賑わいます。

(写真提供：ブラジル愛知県人会)



★ ブラジルではYOSAKOI SORANが盛んです。日本への遠征も。 ★

(写真提供：蒲美幸氏)



★ 運動会でも、YOSAKOIを踊っています ★

(写真提供：浦美幸氏)



★ 還暦のお祝いは日本と同じく、赤いちゃんちゃんこを着ます ★

(写真提供：蒲美幸氏)

■ ブラジルの自然 ■



アマゾナス州にある2河川合流地点。
2色の水が何キロにもわたって混ざらずに流れていきます。

(写真提供：蒲美幸氏)



野菜で作られた展示。日系移民はブラジルの農業に大きく貢献しています。サンパウロ州モジダスクルーゼス市の日本人移住地で開催された「ふるさとまつり」での展示です。

(写真提供：蒲美幸氏)



ジャボチカーバ
(Jaboticaba)

日本では、なかなかお目にかかれない果物です。
ちょっと硬いぶどうの様な風味で、秋冬ごろのシーズンになると市場や露店で売られています。
一見大きめの巨峰の様な見た目ですが、ひと粒ずつ木の幹にくっついていて、
幹に直接、大きな黒い粒が付いているので、遠目で見るとカブトムシかゴキブリが大量に付いて
いるようにも見え、結構グロテスクです。

(写真提供：ブラジル愛知県人会)



アマゾン川流域の少女 とナマケモノ

野生動物の保護規則を守りつつも、観光資源として活用されています。

かわいい写真を撮らせてもらった後には、しっかりお金を要求されました。

(写真提供：蒲美幸氏)



リオデジャネイロのコパカバーナビーチ
こんなに波が高いのに海水浴場だなんて、信じられません。

(写真提供：蒲美幸氏)



ベレン市から見たグアジャラー湾の夕日です。とても素敵な雰囲気ですね。

(写真提供：ルーカス・サンタナ氏)



ブラジル北部のパラ州、カエテー川です。写真で見られるように、船が通れて、その川を使って、市場まで魚などを運びます。 (写真提供：ルーカス・サンタナ氏)

■ レストラン・料理 ■



ブラジルらしい定食。フェイジョアーダ（黒豆と肉の煮込み）、ケール、ファ
ロツファ（キャッサバのふりかけ）、サラダ、ライス。

（写真提供：蒲美幸氏）



スーパーヒロタの
☆ 和弁当 ☆

サンパウロ市近辺に展開する日系スーパーHIROTAで売られている和風の弁当です。見た目も味も良く出来た弁当ですが、一つ衝撃的な事実があります。黒ごまを振ったご飯の上に乗っている赤いもの、梅干しではありません。

”ミニトマト”です！

HIROTAさんの弁当に限らず、当地で売られているお弁当には、梅干しの代わりにミニトマトが入っていることがあります。確かに、梅干しは食べ慣れていない人には、なかなか受け入れにくい食品ですね。初めて食べたときはビックリしました。

(写真提供：ブラジル愛知県人会)



サンパウロ市内の東洋人街リベルダーデには、
その名も「なごや食堂」があります。

(写真提供：ブラジル愛知県人会)



サンパウロの 鶏の丸焼き

街なかのパン屋や食堂の店先で、主に週末や祝日に鶏の丸焼きを売っています。棒に刺した鶏を、回転させながらじっくり時間を掛けて焼く肉は、肉汁たっぷりで柔らかく、熱々で食べると殊のほか美味しいです。日本にもたくさんの鶏肉を輸出しているブラジルですので、もちろん値段もリーズナブル！お店によって値段や大きさが違いますが、500～1,000円程度で大きな鶏の丸焼きが食べられます。みんな家に持ち帰り、ファロッフア（キャッサバ芋の粉）を掛け、付け合せのじゃがいもと一緒に楽しめます。お店によって味も変わるので、自分好みの“一羽”を見つけてください！

（写真提供：ブラジル愛知県人会）

山盛りのブラジル風唐揚げとポテトフライ



ブラジル風の唐揚げは、お店によって多少異なりますが、
にんにくを効かせてカリカリに揚げた鶏肉にライムを掛けたりマヨネーズに付けたりして
食べ、ビールが止まりません！
ポテトフライも、どっさり山盛りで出てきます。

(写真提供：ブラジル愛知県人会)



ココナッツとパイナップルの 移動販売トラック



ブラジルは農業、フルーツ大国。田舎道を走っていると、いろいろな産地直売の露店があります。

ここでは、パイナップル(Abacaxi)が5個で10レアル(約200円)、ココナッツが1ダース(12個)で25レアル(500円)です。

日本では考えられない安さです。

(写真提供：ブラジル愛知県人会)

観光・ イベント

リオ、コルコバードの丘の上に
立つキリスト像の後姿



(写真提供：蒲美幸氏)



リオのカーニバルのワンシーン

(写真提供：蒲美幸氏)

リオのカーニバルには観光客も出場できます！



(写真提供：蒲美幸氏)



パラ州のブラガンサ市で聖ベネディクトを祝う「聖ベネディクトの祭り」です。
聖ベネディクトは唯一の黒人の聖人で有名です。
昔、奴隷にされていた黒人を守ると言われていました。

(写真提供：ルーカス・サンタナ氏)



これも、パラ州のブラガンサ市での「聖ベネディクトの祭り」です。

(写真提供：ルーカス・サントナ氏)

観光列車(チラデンチス)



現代のブラジルでは、大都市の地下鉄や近郊列車を除き、日常利用で旅客を運ぶ鉄道はありません。各地には、蒸気機関車が客車を牽引する観光鉄道もいくつかあり、人気となっています。

ミナスジェライス州チラデンチス(Tiradentes)市とサンジョアンデルレイ(São João del Rei)市を結ぶ観光列車です。

(写真提供：ブラジル愛知県人会)





カポエイラ。ダンスのような格闘技のようなスポーツです。

(写真提供：蒲美幸氏)

■ ありがとうございます ■

「写真で見るブラジル」をご覧ください、ありがとうございました。

私どものサイトでは、このほかに、愛知県の日系ブラジル人の様子を知っていただける動画や、ブラジルの基本情報、愛知県の外国人の状況、ブラジル料理紹介、ブラジルあるある、ブラジル愛知県人会、といったトピックの記事を用意しています。

ぜひそちらもご覧ください。



果てしなく続くビーチ<パラ州ブラガンサ市のアジュルテワ海岸> (写真提供：ルーカス・サンタナ氏)